

ホトケドジョウ復元池・谷戸池で調査を行いました

試験場のビオトープ・谷戸池では、1998年から絶滅危惧種・ホトケドジョウの復元研究を継続して実施しています。今年も越冬後の成魚の状態を把握するため、引網と叉手網を使って、採集調査を行いました（写真1）。



写真1：谷戸池における調査の様子

昨年は個体数が少なかったのですが、今年の方が心配でしたが、例年並み、102尾の成魚を採集することができました（写真2・図1）。すでに卵を持っている成魚も多く（写真3）、5月以降には稚魚もたくさん見られそうです。



写真2：採集されたホトケドジョウ



写真3：卵を持ったメス

ここ数年、侵入してきた外来種のカワリヌマエビ属（写真4）が継続して採集されており、在来のヌカエビ（写真5）との競合が懸念されますが、今のところヌカエビは減少していません。また、今年の特徴としては、トビケラ類が目立ち、特にトビイロトビケラ（写真6）の仲間が多く採集されました。



写真4：県内全域で増えている

外来種・カワリヌマエビ属



写真5：各地で減少している

在来種のヌカエビ



写真6：変わった巣を作るトビイロトビケラの仲間

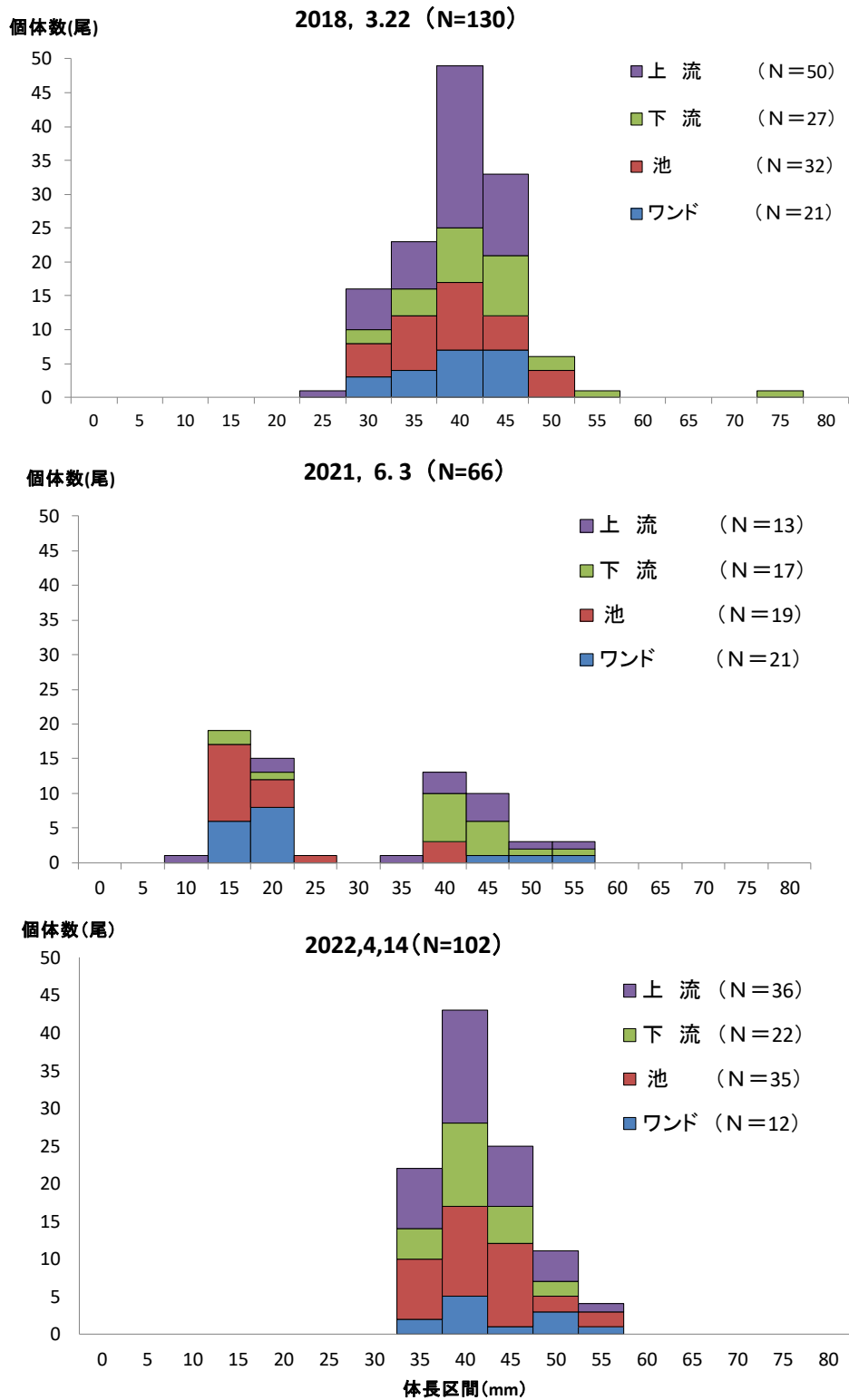


図1 谷戸池におけるホトケドジョウの体長頻度分布図,

上; 2018年, 中; 2021年, 下; 2022年 (4つのエリアに区切って調査を行いました。)